

DOYU

I W A T E

2
Feb.

2021
Vol.147

同友いわて

エネルギーシフト
④エンデ
岩手の挑戦



よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。
岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

私たちが企業家が先頭に立って実践を!!

「欧州視察参加からの、その後の取り組み①」

「入り口を示して出口でニコニコ待つ」

岩手県中小企業家同友会
エネルギーシフト研究会会長
村松 幸雄氏
(信幸プロテック株) 取締役会長



これ
までの
岩手同
友会の
6回の

欧州視察で85名もの方々にご参加いただきました。大変な時間と経費をかけて、それなりの決意を持って臨んだはずですが、しかしながら実際に企業で実行すると簡単に進みません。取り組んでも利益が出るまでには時間もかかります。しかしそれよりも大切なことは、このままでは大変な社会が間違いなく来るといことです。既に地球が大変なことになっていきます。私たちは年を取りいずれお迎えが来ますが、私たちが

いなくなっても、このままでは未来の人たちには迷惑をかけ続けることになるのです。

欧州でエネルギーシフト(ヴェンデ)の姿を見てきた私たちに、誰でもできることがあります。企業家として、一人の生活者としてまず「省エネ」「小エネ」の模範を世の中に示すことです。やってみせることが必要でしょう。そして加えて、「創エネ」「商エネ」

の「4つのシヨウエネ」をそれぞれが見せていくことでしよう。事業としてではなくとも、誰でもできるモデルとして取り組んでみる事です。これからご紹介していく取り組みは、視察から帰国後に、「4つのシヨウエネ」に自分なりに向き合ってきた実践例です。報道では出ないかもしれない。けれども実は「真似がしたくなる」ものばかりです。今後随時ご紹介していきます。

2050年に掲げたカーボ

ンフリーの目標の前に、2030年があります。ご承知のとおり、すでに昨年、産業革命後の平均気温上昇が1・2度までできてしまいました。2030年までに1・5度の上昇を迎えてしまうと、もう氣候変動は止められない状況に陥る、暴走し始めると言われています。2030年まであと9年しかありません。

パリ協定では2050年までの平均気温上昇を2・0度までに抑えようと目標を定めています。もう間に合わない状況にきているのです。「ぼやっ」としては行かない。私たち中小企業が先頭に立って動かなければなりません。医者資格が必要。お医者さんでなければ治療できないこともあります。でも私たちに「入り口を示して出口でニコニコ待つ」ことはできません。目の前の危機に立って、先を示すこと。これが私たちが企業家にとつての、未来の皆

さんへの責任なのではないでしょうか。

「矢巾を明るく照らす」
「私たちは地域の電気のかかりつけ医をめざします。」

杜陵テクノ株 代表取締役
川村 武司氏(第6回視察参加)



帰国後社内で話し合っ、地域内で「お客様にとってエネルギーの新しい価値づくり」を意識して提案力を磨いています。すでにHEMS(ホームズ)「Home Energy Management System (ホームエネルギーマネジメントシステム)」のような、家庭で使うエネルギーを節約するための仕組みがありますので、そうした機材を利用して、エネルギーの見える化をすすめていきます。省エネなどの効果がとれだけあるががわかると、取

り組みが変わりますし、特に家庭では太陽光発電などの再生可能エネルギーのメリットがあまりないのでは、と思われている方も多いので、IoTやIoTも駆使し見える化を進め、地域全体で取り組んで行きたいと思えます。

また皆が取り組んでみたくなるような情報発信や地域の企業向けには、エネルギーを軸にした企業連携の方法や、農業経営に生かせるエネルギーシフトの方法を提案するなどのエネルギーコンサルタントとしての役割も担っていきたいと思います。電気には色がありませんが、将来的には自分たちの提供する技術や技能が選ばれるようになりたと思っています。その先に地域での電気、エネルギーの自給があります。自分たちで生み出し利用するほうが利点があると思えば皆さんも実行に移せるのではないかと思います。そうしたことを地域力で実現できるようなエネルギーシフトの取り組みにしていきたいと思えます。

「断熱性能の価値をどれだけご理解頂くかが鍵」

(株)アート不動産 取締役

櫻井 竜三氏 (第1回視察参加)



帰国後、岩手県内で新築賃貸住宅のエネルギーシフトを実現しました。

1LDK6世帯のアパートですが、これからの人口減少時代に、入居者様から選ばれ続ける物件になる事が重要であることを認識し、欧州視察のドイツで見た断熱性能の高い建築を実現できる工務店を探し実現しました。

完成後、最初の土日で全てのお部屋が決まりました。冬暖かく夏涼しい住宅は、お客様にとっても魅力的であったことを実感しました。

しかしながら、共同住宅を建築される方の多くは投資として共同住宅を建築されますので、初期投資額をいかに抑えるか。という点は施主様にとって重要な要因となります。

その中で、断熱性能の価値をどれだけご理解頂くかが鍵になると思います。

住宅性能が上がってきた住宅で育つ子供達が、将来アパートに住むようになれば、当然、暖かいアパートのほうが選ばれると思います。将来の顧客を見越した差別化戦略の為に、アパートの断熱性能というのは重要になってくると思います。

「子どもたちに、地域の恵を誇りに思ってもらいたい」

(有)猿子園芸 代表取締役

猿子 祐太氏 (第4回視察参加)



これまでユリやチューリップの球根は、オランダからすべて直接輸入してきました。いつも価格の変動や物流のことで振り回されることが多く、地域内でどうしたら付加価値が高められるかと考えていま

した。私たちは花や野菜を扱っていますので、その価値を高めることが農業の価値も高めることなのだと思います。そこで、球根を雫石でつくる取り組みに挑戦し始めました。また雫石の若手の花き農家7名が集まり、地域の子どもたちに花育活動も始めました。農家の子どもたちは、食物がどんな風に育っていくのかを日頃から見ながら成長していますが、ほとんどの子どもたちはそうした経験を経験していません。

そこで地元の保育園に伺い、子どもたちに花や野菜を植えてもらい、一緒に育てる活動を始めました。男の子には「食べるのなら」、と野菜がどんな風に成長していくか観察することも同時にスタートしました。

今では雫石の保育園では、農協や自治体の皆さんにも全面協力いただき、卒園式を自分たちが育てた花と地域の農家が育てた花で自分たちが飾り付けをし、父兄や来賓の皆さんを自分たちが迎える、素敵な取り組みも実現すること

が出来ました。

これも「地域のことを誇りに思ってもらいたい」との若手農業者の気持ちが大きいですが、何よりも地域で使うものは地域で生み出すという、まさに域内循環というエネルギーシフトの取り組みの実現であると思っています。

「毎年の二歩は少なくとも、その積み重ねが大きな経験に」

勸六縁 代表

菊池 陽佑氏 (第6回視察参加)



一番の変化は焦らなくなってきた、ということが大きいと思います。どんなことでも長期的に物事を見ることが出来るようになったと思います。遠野で無肥料無農薬で米の原種である亀の尾を育て始めて、今年で11年目となります。様々

なことがありましたが、自分たちが取り組んで来た方向性が間違いなかったということが確認できたように思います。1年、1年の変化はなかなか見えずらく、成長や変化を感じる事が難しいのですが、1年目に取り組んで起きた変化と、10年が経過して起きた変化を比較すると、大きな変化が生まれてきたことに気づきます。まさに「毎年の一歩は少なくとも、その積み重ねが大きな経験になっている」ことに気づきました。

どうしてもゴールを意識してしまうと、今どこに居るのかを確認したときに「これではだめだ」、と思うこともありました。でも「今はこの位置なのだ。ただそれだけ」と感じる事ができるようになったことが大きな変化です。社員に対しても同様です。成長する速度はそれぞれです。手助けはするけれどもあくまでも本人の成長したいという意思が大切だと思えます。そんなふうになったのを見られるようになったのが大きいと思います。

支部・地区委員会 ほづとライン

ダイバーシティ委員会

生きがいのある世界を

12月17日（木）カガヤ肴町ビル4F会議室に於いて、ダイバーシティ委員会主催、共同求人・社員共育委員会・女性部共催で特別例会が開催されました。報告者に盛岡市議会議員、いわてレインボーマーチ代表の加藤麻衣氏よ

り、「多様性」をもっと深めるという大きな視点で、「26歳レズビアン市議と探る県内中小企業での『働き甲斐』」というテーマでご報告いただきました。

加藤氏は、学生時代からジェンダー平等や性の多様性に関する啓発活動に取り組んできました。それは自分が性的マイノリティで、周りにわかってもらえない苦しさ、そして何よりも家族にウソをつき続ける事の辛さから35歳で死のうとも考えていました。大



学時代、自分と同じ悩みを抱える友達に打ち明けたところ「私は自分で死ぬ苦しみより生きる苦しみを選ぶ」と言われました。その言葉から「そうだみんな違ってみんないいんだ。今の自分にもっと素直になり生きていく」と決意し、まずは

母親に自分が性的マイノリティであることを打ち明けました。最初は驚き動揺もありましたが、母親にもきちんと理解してもらうためにも根気よく話をしながら向き合い、今では一番の理解者になっています。

そして自分と同じように悩みを抱えながら生きている人たちのためにも、2019年盛岡市議会傍聴とニューヨークのプライドパレード参加をきっかけに、盛岡市議会選挙に最年少で立候補し、これまで議会に声が届きにくかった若者や女性、様々なマイノリティの声を代弁したいということを訴えめぐり当選しました。

加藤氏は「市議という新しい立場も増え、誰もが生きやすい社会を創るという目標でLGBTQの人たちの権利を回復する政策として、これからはたくさんの人と出会い話を聞きながら、近い将来盛岡市でもパートナーシップ制度の導入していきたい」と加藤氏のご報告からたくさんの方を学んだ例会でした。

岩手山麓地区1月例会

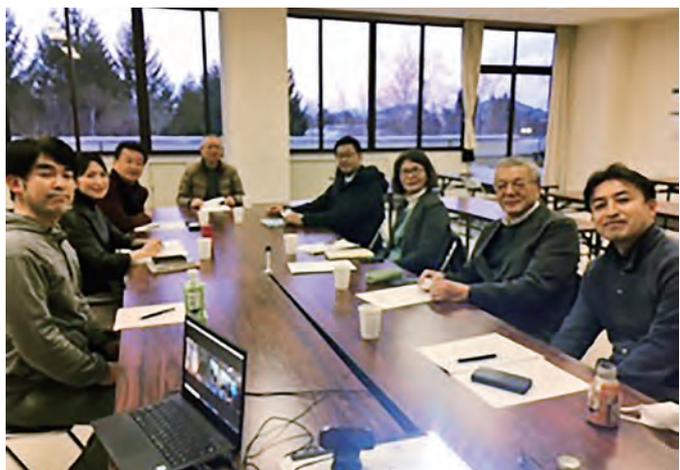
1月14日（木）雫石町総合運動公園会議室で岩手山麓地区1月例会が行われました。

今年最初の顔あわせにもなった例会は、挨拶と昨年を振り返り一人ひとりから話をしていただきました。

参加者からは、「昨年、新たな展開として新事業に取り組み始めたので形となり動き出せるようにしていきたい。」「法人化したことで今後、組織としてどう構築して行くかが課題。今まで以上に社員との関係性を大事にして行きたい。」「厳しい環境の中だったが3名雇用することができた。課題を明確にし、苦しい時は苦しいと声を上げることができ環境づくりをして行きたい。」「コロナの影響は出ている。解決するには1年から2年はかかる」と予想している。こういう時だから内部体制を整え事業強化に向けて動いている」社

内体制とチームワークの良さを実感する場面が多い。これは社員一人ひとりと向き合いやって来たことが成果に結びついたと感じている。」「環境に対応した会社が残って行くと思う。自社も社会の変化に対応できるように取り組んで行きたい。」などが出ました。

厳しい環境の中だからこそ経営者が問われる状況です。悩みや課題に目をそらさずお互いに本音で語り合う場の重要性を感じる時間となりました。



ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

ステイニング

一年の始めに、私が尊敬する偉大な音楽家ステイニングに関する珠玉のドキュメント映画を観ました。独仏合同テレビ



局ARTEが制作したものです。このテレビ局は、政治、文化、社会、自然科学と多様な分野で、質の高いドキュメント作品をつくり続けています。日本に関する作品も数多くあります。

ステイニングの音楽は、ベーシカルだけど新しく、軽やかで同時に重厚で、古典的でエキゾチックで、どのジャンルにもタイプにもカテゴライズできない独自性が、私を含め多くのファンを魅了していると思えます。彼の音楽は、その印象的なメロディと様々なものを凝縮した深みのある歌詞で、心奥の方まで響いて

きます。

私が岩手大学で最後の年、1996年秋にステイニングが盛岡にやってきて岩手産業文化センターでコンサートがありました。大学の友人やドイツ人の先生たちと、はじめて生で彼の音楽を聞いた時のことを、今でも鮮明に覚えています。

ステイニングはポリスというグループをつくりわずか5年間で、学校の先生から世界的なロックポップスターになり、大成功を収めました。そのままポリスで確立したイメージとスタイルを土台に、「楽」に音楽活動を継続して富と名誉を構築することができたはず。普通の大半の人間であればそうするでしょう。しかし彼は、成功の真っ只中でポリスという「快適ゾーン」を自ら脱し、新しい未知の世界に旅にでました。

自分の内なる声に耳を傾け、直感を信じて。ジャズやクラシック、アラビア音楽、シャンソンといった他のジャンルのミュージシャンとの協働で、絶えず新しい音楽を生み出してきました。その度に成功を収めています。

彼は、イギリスの炭鉱と造船の小さな街で、労働者の家族のもとで育ちます。彼にとって音楽は、そこから開放されて自由になるための手段でした。音楽家として絶えず新しいものを生み出し、世界の多くの人々の心を動かしてきた彼の原動力は、内部から湧き出る好奇心と自由への願望、異なる人や文化へのリスペクト、人間社会と地球への愛情と思いやりです。

曲の中でも社会的な活動でも、政治的にも勇氣あるステイメントを出し続けています。奥さんと一緒に20年以上続けているアマゾンの熱帯雨林保護活動は有名です。彼はその政治的な活動により、ブラジルの多くのファンを失いましたが、全く動じませんでした。

オープンで思慮深く、大胆であり緻密で、真面目で粘り強い、自分の心に強いコンパスを持っている控えめで謙虚な音楽家です。

ステイニングは現在64歳、6人の孫に囲まれたおじいさんです。その彼がこのドキュメント映画の最後で語っている言葉が印象的です。

「科学者たちが警告し、私も信じている気候変動の話が、実は偽りで間違っていたらいいのに、と時々願う。でも科学者の論を肯定する出来事が、現実には次々に起こっている。自分はまだ6人の孫がいる。もちろん彼ら(孫たち)に美しく安全な世界で暮らして欲しい。そのための解決法が何なのか、自分に何ができるのかわからない。もしかしたら何もできないかもしれない。でも、彼らに安全な生活をさせたいという思いが私を従事させる。私たちはみんな、未来を考えないといけない。それが私たちにとって大切だということ(彼ら次世代)に示さなければいけない」

SDGsの本質と魅力、可能性②

「次世代への配慮」は「私たちの次の世代への思いやり」

5人に1人が 黒い森に戯れる

その森の暗さが北部ゲルマン人の進出を拒んだとも言われるドイツの「黒い森」は、

南北約160km、東西60kmにわたって広がり、トウヒ（唐檜）などの針葉樹林が鬱蒼と生い茂ります。車で20分〜30分のところには、人口約22万人のフライブルク市があり、週末には待ち望んだ人々が森林浴に訪れます。

2015年の11月のエネルギーシフト（ヴェンデ）第2回ドイツオーストリア視察時、現地はダウンジャケットを着込んで震えるほどの大変な寒さでした。黒い森を訪れたとき雪はしんしんと降り、私たちは移動バスの中で縮こまっていました。しかしその脇をカラフルな防寒着と毛糸の帽子を被ったカップルや家族連れが、リュックを背負って雪が積もる森の中に楽しそうに歩いて入っていきま

す。初めて見る雪中の風景が不思議でなりませんでした。



きたドイツ西南部のバーデン・ヴュルテンベルク州は、面積約36,000平方km、うち森林率が約40%の地域です。その森林を約1,000万人の人口のうち、1日平均約200万人が利用していると言われてい

ます。実に5人に一人が日常生活の中で森に入っていることになり

ます。なかでも黒い森を中心としたシュヴァルツヴァルト地域の宿泊客数は年間約800万人、宿泊数は年間約2,100万泊もあると言われています。森林、そして観光業が一体となり、農山村の暮らしを支える重要な収入源となっています。

最近よく耳にする「持続可能性（サステナビリティ）」という言葉ですが、実は30年以上も前の1713年に発刊された、ハンス・カー

鉱山経営と 森林保全を同時に

(Hans Carl von Carlowitz



1650-1718)の「経済学的な視点から見た森林開発 (Sylvicultura oeconomica)」で書かれたのが最初であったと言われています。

ドイツ、ザクセン州の鉦山総監督であったカルロヴィッツは、鉦山経営者としての視点を持ちながらも、鉦山周辺の森林が計画なく伐採されはげ山になっていく姿に心痛めていました。同時に鉦山では鉦物を溶かすために大量の木材が燃料として使われます。近隣から伐採していくと、次第に遠くまで行かなければ調達できなくなり、鉦山の経営を圧迫するようになります。まさに現代のような原料調達のための費用と物流の問題が表面化しました。鉦山経営を維持発展させながら森林を守り、更に地域の産業としての林業や農業が自分たちの子どもや孫の世代にまで将来にわたり持続させ続けるためにどうしたらよいか。その問題提起から描かれたのが同書です。「どうしたら将来世代の為に蓄えを保ち続けられるか」という視点から描かれて

います。

私たちの次の世代への 思いやり

私たちが欧州視察の中で毎回、森林環境コンサルタントの池田憲昭氏から、ドイツのエネルギーシフト(ヴェンデ)の考え方の根底にある表現として、繰り返し森の中で聞い

てきた「次世代への配慮」という言葉があります。

この考え方はカルロヴィッツの遙か前から世代を越えて引き継がれてきたと言われ、ドイツ人の生き方そのものを表現しているのかもしれない。「今の自分たちの世代のことだけを考えて、森を一気に切ってしまったら、将来の

世代は生きていけない、村や地域や産業は、消滅してしまう。将来の世代もすっかり生活していけるような森林利用をしなければならぬ(同友いわて池田氏コラムより)という考えです。

持続可能性(サステナビリティ)と聞くと、他人ごとになりがちですが、「私たちの次の世代への思いやり」と言葉を変えるだけで自分ごとへと変化しま

す。そのために地球の気候変動に影響を与え続ける温室効果ガスを極力削減しよう。そしてその原因の最も大きな、私たちのエネルギーや熱利用への考え方を大転換しよう、生き方そのものを変革しよう、というのがエネルギーシフトであり、エネルギーヴェンデの根幹ではないかと思えます。更にカルロヴィッツの提起のように、次世代のために、経済も環境も社会も持続的に循環し発展を続けられるようにすること。まさにこれ



がSDGsのめざす理念にもつながります。

私たちが繰り返し黒い森を訪れる背景には、こうした「次世代への配慮」という考えから来る森との付き合い方から大きな興味を抱いたからです。更に、ドイツの2倍以上の森林を保有する日本の山々の経営者が高齢化し後継者が少なく、荒廃していく姿を見て、次の世代に100年の森を引き継ぐために、私たちに何ができるかを考えたいと思ったからでした。

わが社の新商品

八幡平市安代地区にある(株) 麴屋もとみやでは麴専門店として麴と味噌、その他加工品を販売しています。麴や味噌を使用したスイーツにも力を入れ始めており、今回は程よくお味噌が香る「麴屋シチュー」を盛岡市内の洋菓子専門店「ブルドゥーネージュ盛岡緑が丘店」様と共同開発し新発売。サッパリしているながらもコクのあるカスタードクリームにお味噌のコクが程よく絡み、シチュー生地にし混ぜ込んだ味噌が、生地を焼き上げること香ばしく香。和と洋のいいとこ取りの絶品スイーツです。お子様からご年配の方まで、麴と味噌に触れるきっかけとなればと思っております。(価格：税込285円、冷凍販売)



■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。
 ■活用下さい。www.iwate.doyu.jp
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。
 ■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

物を大切にし環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
 総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース

代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
 ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
 TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
 携帯 090-8780-3296
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ

〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531
 〒981-8501 支社：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020

[輸送包装便覧.com](http://transport-package.com/) <https://www.transport-package.com/>

オリジナルラベル ワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 社名ロゴ 包装、12本以上
 有賀自醸ワイン 写真OK のし無料 作成料無料
 岩手県紫波町産ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
 自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
 醸造元
 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

人と自然にやさしい環境を創り
 地域型企業として貢献します。

水まわりのリフォーム
 キッチン 洗面・トイレ 浴室

住宅設備のアップグレードサービス
 エコキュート ボイラー FFSドープ

浄化槽
 安心安全！ 調査・施工 メンテナンス 経理

北上営業所

岩手日化サービス株式会社
 盛岡市黒川22地割56番地
 電話 019-696-5611

DOYU
 同友いわて
 2021 Vol.147

発行/岩手県中小企業家同友会
 広報委員会

2021年2月1日発行

〒0200878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F
 TEL:019-626-4477 FAX:019-626-1644
 Mail: info@iwate.doyu.jp

注文すると「明日」来る。
 オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
 ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 **平金商店**
 アスクルエージェント TEL:019-624-2121

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
 Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
 HIRAZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/mobile>

安心して暮らせる地域づくり
 共に繁栄する仲間づくり
 社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工
 特殊肥料、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

東日本機電開発株式会社
 〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10
 TEL: 019-675-2277 FAX: 019-675-2288

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
 真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 光触媒 CO2 エネルギー 燃焼

食用油 燃料化 BDFの製造・販売 BDF燃料 エネルギー燃焼

紫波環境株式会社
 岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
 TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

し原・浄化槽汚泥収集運搬